

当施設における ETRF 故障の時間的特性についての検討

東京女子医科大学 臨床工学部¹ 臨床工学科² 腎臓病総合医療センター血液浄化療法科³

○瀧澤亜由美¹(タギサリアユミ) 清水幹夫¹ 石森 勇¹ 鈴木万恭子¹ 若山功治¹ 村上 淳¹
金子岩和¹ 木全直樹³ 峰島三千男² 秋葉 隆³

【目的】

2011年版社団法人日本透析医学会「エンドトキシン捕捉フィルタ(ETRF)管理基準」によって、製造業者推奨の期間より長期に使用する場合、各施設での使用環境を考慮した交換時期の検討が求められることとなった。ETRF故障の特性について検討したので報告する。

【方法】

透析室移転後に新規購入した日機装社製多用途透析装置DBG-03(ダブルカッター)において、ETRFを装置のCF漏れテスト不合格の警報が出るまで使い続け、CF1(上流側)、CF2(下流側)の使用時間を記録した。観察期間は2010年3月20日から2011年6月1日とした。装置は個人用を使用し、透析原液を溶解装置から集中配管している。

【結果】

CF1、CF2の平均使用時間は 3249 ± 1022 時間、 3654 ± 1123 時間であり、CF2の方が有意に高値となった(paired t test、 $p < 0.05$)。メーカー推奨の交換時間では、カプラン・マイヤー法を用いた結果、故障率はCF1で0.0029、CF2で0.0013であった。

【結語】

各施設の透析機器安全管理委員会において、使用環境を考慮した交換時期を検討し、管理していくことが重要である。